

ふなきやま そくりょうちようさげんちせつめいかいしりょう
船来山62号墳測量調査現地説明会資料

平成 25 年 8 月 3 日

本巢市教育委員会社会教育課

1 船来山古墳群について

船来山古墳群は、現在、291 基が確認されている群集墳です。現在の古墳の数は、岐阜県内でも第 1 位を誇ります。また、全国の中でも大阪府平尾山古墳群（約 1407 基）、奈良県巨勢山古墳群（約 771 基）、新沢千塚古墳群（約 600 基）などに続き、現在でも第 5 位に位置しています。過去の発掘調査の調査成果からすると、船来山にはもっと古墳があり、1000 基を超えるのではないかという説もあります。

こうした群集墳は、5 世紀末～6、7 世紀にかけて造られることが多いのですが、船来山古墳群の中には、もっと古い時代の前方後円墳があります。現在約 12 基確認されていますが、このうち調査が行われたのは約 4 基で、ほとんどが未調査です。このほか船来山 24 号墳のように、昭和 42 年【1967】に不慮の事故によって発見された事例もあります。この時には、鏡 5 枚、銅の鏃約 32 個、5 cm を超える大きな勾玉、管玉約 146 個、ガラス玉、太刀など豪華な副葬品が出土し、現在は東京国立博物館に収蔵されています。

今回の分布調査では、前方後円墳を中心に調査を行っていく予定です。また、専門家による検討委員会を設置し、古墳群としての価値づけや全体像を明らかにし、保護を図っていくことを目的にしています。

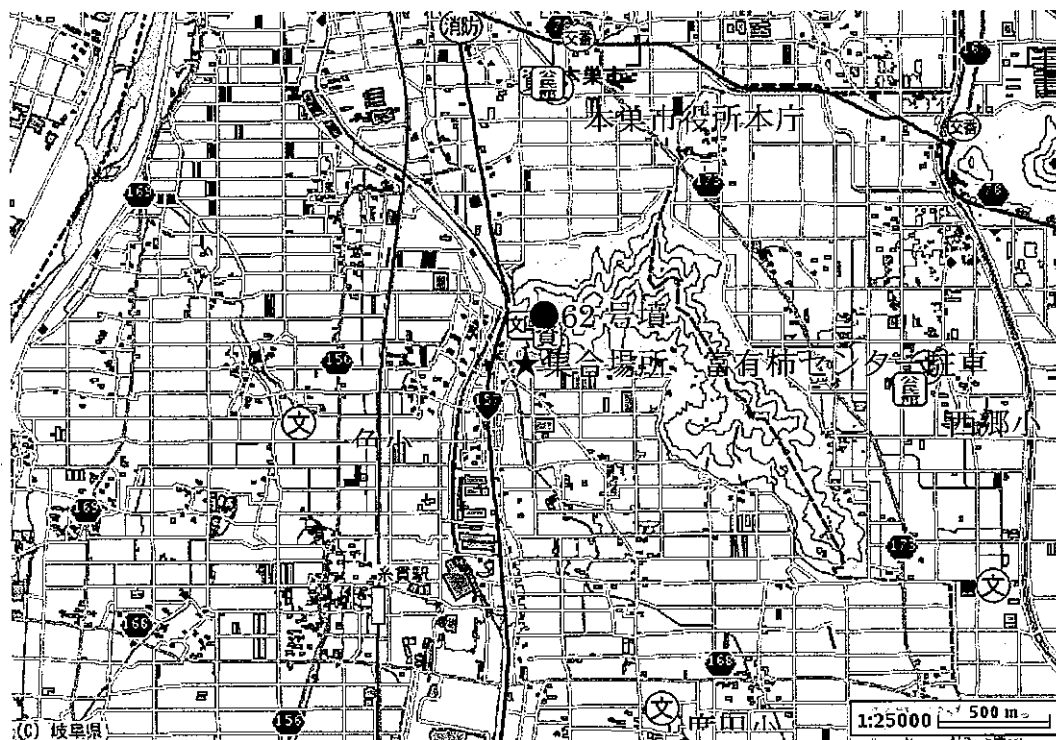
2 船来山 62 号墳について

今回測量調査を実施している船来山 62 号墳は、船来山の西端の中腹、標高約 63m の場所に立地する前方後円墳です。岐阜県立岐阜農林高等学校のご協力をいただき、環境科学科の先生と生徒に加入いただきました。市民の作業員と協働で測量調査を行っています。

この古墳からは、本巢市見延（古代の美濃部郷推定地）への眺望がよく、古代本巢郡が見渡せる場所にあります。

従来から、前方後円墳であることは言われていましたが、正確な大きさなどが不明なままでした。今回の測量調査によって、全長 45 m を超える前方後円墳の可能性がでてきました。また、残念ながら前方部が遊歩道によって削られている可能性も分かってきました。

地図



3 船来山 62 号墳の葺石について

測量調査に先立って、5月18日に「ふるさと学習ロマンプロジェクト」受講者の児童生徒とともに、清掃活動を行い、草刈り、雑木の除去を行いました。この活動により、古墳の形が丸ごと姿を現しました。地面をよく観察した結果、受講生の児童が、古墳の^{ふきいし}葺石を発見しました。葺石は、主として古墳の^{まいそうしせつ}埋葬施設や墳丘を覆う外部施設の1つで、古墳の墳丘斜面などに河原石や^{れきいし}礫石を積んだり、貼りつけるように^ふ葺いたものです。礫は拳大から人頭大の河原石がよく使われ、付近の河川から運ばれました。(下ふるさと学習受講者の児童が発見した船来山 62 号墳に残されていた葺石)



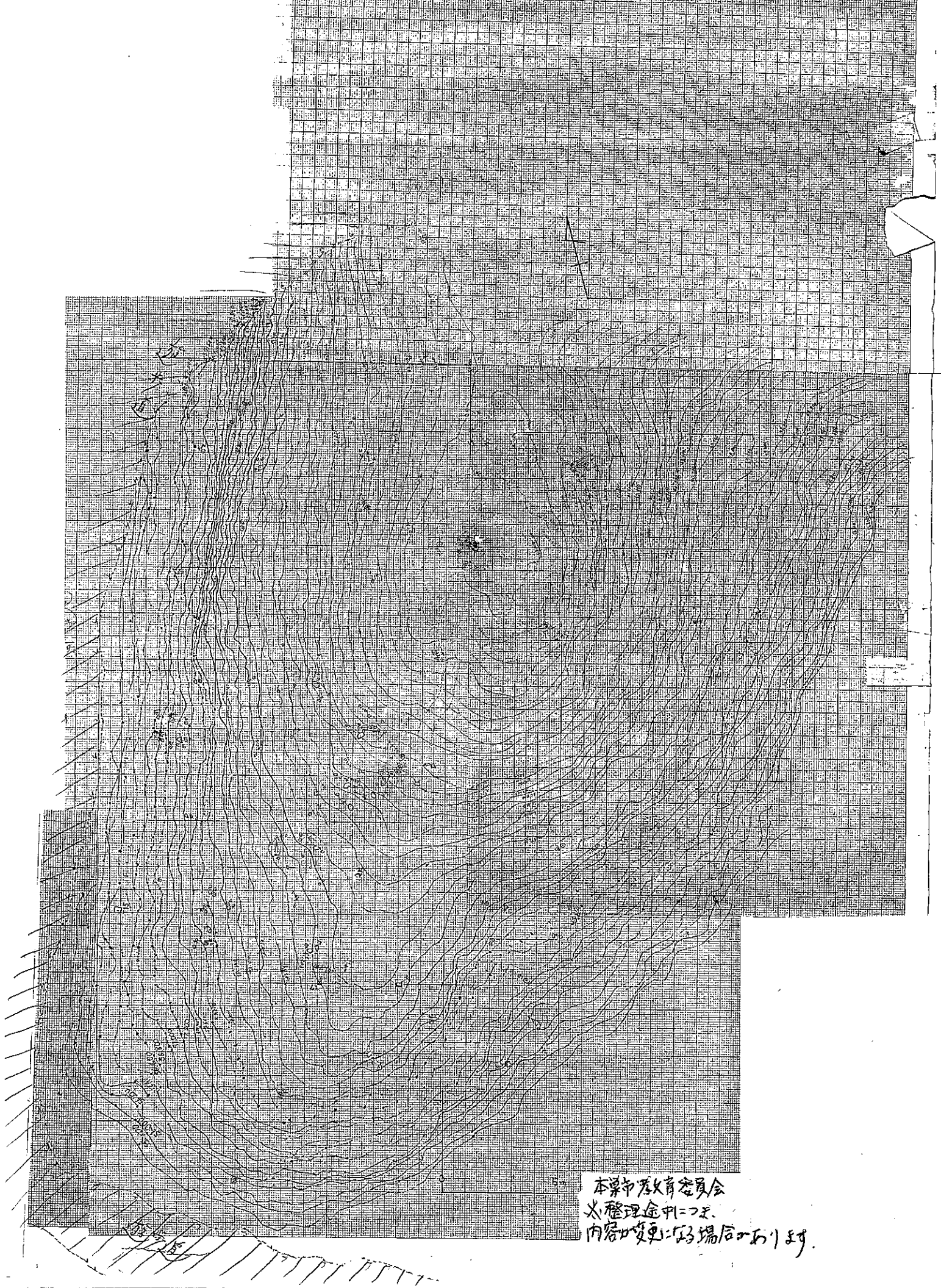
4 船来山 62 号墳の時代について

船来山 62 号墳は、後円部の標高が高く（約 63.3m）前方部の標高が低い（約 59.4m）墳形をしています。比高差が約 4m あります。前方後円墳は、時代が新しくなると、後円部と前方部の高さが同じくらいになってきますので、この 62 号墳は古墳時代前期（4 世紀代）の古墳ではないかと推測されます。



本巣市教育委員会社会教育課 電話 058-323-7764 本巣市下真桑 1000 番地

アドレス : shakai-kyouiku@city.motosu.lg.jp



本県教育委員会
※整理途中です。
内容変更の場合同様に。
昭和55年